



令和 6年 1月16日

ご関係の皆様方へ

大阪市立大隅西小学校
校長 原 雅 史

「主体的対話的で深い学び」のある授業づくり研究

大隅西小学校 第3回 全市公開授業のお知らせ

(兼 学力向上支援チーム事業 研究授業)

厳寒の候、貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り、まことにありがとうございます。

本校では、新学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学びのある授業（＝学び合い）」づくりを研究テーマに据えて、日々研鑽を重ねているところです。12月に行いました体育の公開研修会にも多数の先生方にお越しいただき、貴重なご意見などを頂戴することができました（感想別紙参照）。まことにありがとうございました。

このたび、次の要領で第3回の全市公開授業を実施いたします。各校、進路指導、各種学校行事でお忙しい時候かと存じますが、「主体的対話的で深い学びのある授業」の実践事例の1つとして、ぜひご見学いただき、皆様とともに学び合えますことを願っております。どうぞお気軽にご参加くださいますようお願い申し上げます。

1 開催日時

- ・実施日 2月14日（水）
- ・中心授業 1年1組 教科：算数 「おおきいかず」 授業者：井口 美帆
- ・スーパーバイザー 佐藤 学 先生（東京大学名誉教授）
著書 『学校を改革する 学びの共同体の構想と実践』岩波ブックレット など

- 2 会 場 大阪市立大隅西小学校（大阪メトロ「瑞光4丁目駅」下車 南東へ200m）
大阪市東淀川区大隅2-3-18 電話 6328-6557

3 公開授業 時程（公開授業①②③では全クラスで公開しています）

9:00 9:50 10:35 10:50 11:35 11:45 12:30 13:50 14:35 14:50 15:40 17:00

受付	公開 授業① 5年		公開 授業② 2・6年		公開授 業③ 3年・4年	休憩	中心 授業 1年1組	休憩	研究 協議	スーパーバイザー 講話
----	-----------------	--	-------------------	--	--------------------	----	------------------	----	----------	----------------

※公開授業だけでも、中心授業からでもご参加いただけます。昼食は各自ご準備ください。

※ビデオ撮影を希望される方は受付でおっしゃってください。研究用としてのみご利用いただき、SNSなどへのアップはおやめください。

※授業中は授業の妨げにならないよう、後ろ、前、横からのみご覧ください。（子どもの中には入らないでください）また、授業中児童には話しかけないでください。

- 4 申込方法 ① スキップメール 大阪市立大隅西小学校 教頭 前田 博己 まで
② FAX 別紙のFAX送信票でお申し込みください。

■ 大隅西小学校 研修会・研究会の予定

下記の研修会、研究会は原則全て公開しております。

参加を希望される先生は、上記同様本校へご連絡ください。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

月	日	曜	全市公開	ビデオ研	校内研修	公開研修会	講師	担当・授業者	
4	3	月			1		校長	学び合いとは 1	
	10	月			2		校長	学び合いとは 2	
	26	水		1				高：6年1組 算数	
5	17	水		2				中：3年2組 算数	
	23	火					校長	師範授業 3年算数	
	24	水			3			年間研究予定	
6							校長	師範授業 国語	
	7	水			4		校長	教材研究会（海のいのち）	
	21	水	1				石井 t	全学級	
							校長	師範授業 3年算数	
7	5	水		3				低：2年1・2組音楽	
8	22	火				1	校長	社会科、算数 模擬授業 （兼 東淀川区教育研究会）	
	24	木				2	校長	国語授業ビデオ研修会	
8	25	金			5		校長	2学期に向けて	
9	13	水		4				第4回ビデオ研（3年算数）	
10	11、13、16、17、18日						校長	師範授業 国語（おにたのぼうし）	
	25	水		5				第5回ビデオ研（5年社会）	
11	15	水			6		校長	教材研究会	
	30	木	2				石井 t	全学級	
12	6	水		6				第6回ビデオ研（4年社会）	
	22	金				3	校長	体育科 サッカー 模擬授業	
1	17	水		7				第7回ビデオ研（6年理科）	
	31	水			7		校長	教材研究会	
2	14	水	3				佐藤 sv	全学級	
3	6	水		8				第8回ビデオ研（詳細未定）	
	22	金			8		校長	1年間のまとめ	

「主体的・対話的で深い学びのある授業」づくり(3)

「学び合い」の源流をもとめて

～ 赤ちゃんの学びと「言語の本質」 ～

本校は「主体的対話的で深い学び」（以下「学び合い」）のある授業づくりの研究を推進しているのですが、もちろんこれは本校オリジナルではなく、新学習指導要領がめざすところでもあります。では、この「学び合い」はどうやってうまれたのでしょうか。

今年度も公開授業研究会、研修会に多くの先生方にお越しいただき、学び合うことができました。ありがとうございます。来校された先生方と話していて、ある共通項が見えてきました。それはこの学び合いを、みなさんものすごく肯定的に捉えていて、ぜひ自分の学級、授業でもやってみたいと考えておられるということです。もちろん、本校の研究会はそこを目的に取り組んでいますので、当然そのようなご感想を持つとは思いますが、実際に研修を受けてみて、自分の意に反するものでは全くなく「ああ、やっぱりこのようなコンセプトで授業をしたい」と授業を見られたあと、この学び合いは、みなさんを一層魅了するようなのです。

では、どうして「学び合い」の授業は、このように多くの先生方をひきつけるのでしょうか。その理由は3つあるかと思います。

①自然な学び

この学び合いは、人間が生きていく文脈に乗っている、極めて自然な学びだということです。「〇〇でなければならない」「〇〇しかない」という縛り、従前のルールから離れ、非常に自然体で物事を学んでいくのがこの学び合いです。それはまるで赤ちゃんが初めて言葉を覚えていくような状況に似ているかと思います。赤ちゃんに言葉を教えていくときに、無理やり押し付ける大人はいないと思います。そうしても入らないことが明らかだからです。学び合いは、食事をするように、夜になったら眠るように、人間の生理現象にも通ずる極めて自然な学びなのです。

②子ども主体の学び

2つ目に、子どもが学びの主人公であることがベースにあり、子ども同士のつながりの中でこそ子どもは学んでいき、教師はこれら子どもの学びを支えるつなぎ役に徹するという理念が、多くの教師を引き付けていると思われます。

『You may lead a horse to the water, but you can't make him drink』（馬を水辺につれていけても水を飲ませることはできない）という言葉がありますが、学び合いではこの言葉を思考の原点の1つに置いています。佐藤学先生は子どもが学んでいるフリをしている状況を「学びの偽装」と名づけ、学校教育において、いま最も大きな課題と位置づけています。

③科学的な学び

3つめに、この学び合いが科学的にも効果のある学習方法と、認められていることが挙げられます。ビゴツキーが100年以上前から学び合いの研究をはじめ、30年ほど前から大半の国々で実践され、やがてグローバルスタンダードになりました。このように極めて効果の高い学習理念・メソッドであると、国際的にも認められています。日本でも40年ほど前から稲垣忠彦先生、佐藤学先生が研究を取り組み始め、10年ほど前から中教審で議論されはじめ、この度学習指導要領に導入されることになりました。

3つ目の科学的であることを、一層深く裏付けるような書籍が昨年刊行されました。今井 むつみ（言語発達、認知発達、言語心理学）先生と秋田喜美（認知・心理言語学）先生共著の『言語の本質』（中公新書）です。そこには、赤ちゃんが言葉を覚え始めるとき「どろどろ」「ぽたあん」「ふつふつ」（しろくまちゃんのほっとけーき）などのオノマトペが多用されるのは、それが人間の感覚に寄りそっているからだとか、メロンを食べたことのない人が、「メロン」という

言葉を覚えたとしてそれは本当にメロンを知っていることになるのか（記号接地問題）、逆に愛という言葉は知らない子どもでも、自分に向けられた愛はわかるが、愛の意味を全てインプットされたコンピュータは、愛の意味を知っていると言えるのかなど、人の学びの源流に深く関わる大変示唆に富んだ内容が書かれています。

そして、ヘレンケラーの逸話を通して全ての単語には意味があると気づいた「名づけの洞察」から、赤ちゃんはどのようにして言葉を覚えていくのか、さらに新出の名詞、動詞を使った実験を通して、以下のような考察をおこなっています。

「子どもは、ある足がかりがあれば、そこから学習を始め、知識を創っていく。そのとき子どもがしていることは、**「教えてもらったことの暗記」とはまったく異なる。**今持っている資源を駆使して、知識を蓄える、同時に学習した知識を分析し、さらなる学習に役立つ手がかりを探して学習を加速させ、さらに効率よく知識を拡大していく。」というブートストラッピング・サイクルの理論を滲ませ、**「学習は「経験の丸暗記」によるものではなく、「推論」というステップを経たものである。」**という結論を導き出しています。

また、なぜ語学学習が重要なのかという問いに**「言語習得とは、推論によって知識を増やしなが**
ら、同時に「学習の仕方」自体も学習し、洗練させていく、自律的に成長し続けるプロセスな
のである。」とまとめています。私はこの言葉を聞いて、今英語を教えている多くの教員の心のつかえが外れたのではないかと思います。

こう考えてきますと、最初の「種」のような知識がないと、その上に知識を重ねることはできないように思えますが、作者はこのように考えています。「子どもはほとんど知識を持たない状態から始めても、自分の持てるリソース（感覚、知覚能力と推理能力）を使って端緒となる知識を創り、そこから短期間で言語のような巨大な知識のシステムを身体の一部として自分のものにしていくことができるのだ。」

「人間の赤ちゃんはひとたび何かについての知識を得ると、すぐにそれを別の機会に適応し、別の知識の学習に使う。この「知識を使う力」つまり「知識が知識を創造する」というパターンは、人間以外の動物には見られないものである。」

ここまでは、赤ちゃんがどのようにして言語を持ったのかという紹介をお話しましたが、最後にコンピュータがどのようにして言語、知能を持ち始めたのかを、本書から引用して紹介したいと思います。1980年代の、認知科学の歴史上の重要な3つのムーブメント（コンピュータに知能を付けていく研究）を中心に紹介します。

①ダグラス・レナー	②ロドニー・ブルックス	③デビット・ルーメルハート
<p>人間の知識を全てコンピュータに記述しようとしました。100人以上の研究者が何年もかかり膨大なデータをメモリに手入力したそうです。もちろん、どれだけデータを入れても、コンピュータは知識を持ちますが知能は持ちません。（記号設置問題）</p> <p>しかしこの入力したものは、現代の我々に大きな恩恵をもたらしました。この膨大なデータは「Wikipedia」として現在活用されています。</p>	<p>ロボットの父と言われている人です。昆虫ロボットプロジェクトを推進し、コンピュータに感覚知覚能力をつけることに成功しました。二足歩行できるロボットなどにこのテクノロジーは活かされています。</p> <p>また音象徴も感知させることができましたが、言語の習得にはなりませんでした。コンピュータはあくまでも人間の声に反応するだけで、単語や文脈を理解することはできません。改めて、言語の習得に何が必要かということに深い示唆を与えてくれました。</p>	<p>PDPモデルをベースに、脳神経（ニューラル）ネットワークの再現を試みました。ディープラーニングのアルゴリズムが提案されると飛躍的に発展し、今では多くの分野で実用されるようになりました。認知科学の最終勝者はこのニューラルネット型AIだと言えます。</p> <p>中でも目覚ましく発展した分野の1つが自動翻訳です。今では非常に難解な文章でも、高精度で翻訳が可能になっています。さらに今ではChatGPTという、あたかも人間同士で対話して導きだしたかのように、しかも瞬時に複数案を提示してくれる生成AIソフトの発展にこの研究はつながりました。</p>

この生成AIに関して、文部科学省 初等中等教育は令和5年7月4日に「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」を発出し、学校現場での生成AIの取り扱いに注意を促していますが、このことは逆にこの生成AIの優秀さを認めてしまっていることにもなっています。

以上、学び合いに関する部分を中心に「言語の本質」の書籍を紹介しつつ、学び合いの研究がどのように構築されていったのかということ、皆様にご提示させていただきました。もちろん今回お話ししたことが、学び合いの源流の全てとは思っておりません。なぜ学び合いを文科省が推奨し、世界の各国で広まっているのかなどを、2月14日に皆様と一緒に、学び合うことができたかと願っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

□12月22日(体育)公開研修会 感想

■たくさんの意見・視点・手法に触れることができ、とても有意義な時間を過ごせました。自分の中でもう一度整理し、今後に生かしていこうと思います。また校内でも伝達し、子どもに返せるようにもしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

■実技研修では、簡単なルールから、少しずつ変化をつけることで考えながら運動することができました。また、もし児童ですとすれば、スポーツを習っている子もあきずに、スポーツの苦手な子と協力してできると思いました。本日の学びを自校に戻っても実践したいと思います。

■各学年2種目、6年生のみ団演含めて2種目、1～5年は団演なし。その為練習期間は正味2週間10月末開催ということもあり、教員も子どもも負担は少ない。その反面、普段の体育の授業の年間計画で必ず「表現運動」を取り入れるしほりを作り、尚且つ年間の実施記録を校務PCのフォルダーに各担任が入力保存していきアーカイブとして学校のデータ財産として残している形をとっている。前半のサッカー研は、知らなかったネタをたくさん聞くことができ、とても助かりました。また、原先生のいつも話されている主体的・対話的な要素の体育バージョンも頭に入れることができました。自身の指導のひき出しにしていきます。

実技研修では、自分が知らなかったやり方や考え方を学べたのですごく良い研修でした。

「かけひき」の動き遊びは別にサッカーだけに関わらず全ての運動の基礎につながるので、様々な活動の導入にとり入れようと思いました。

■団演だけではないですが、児童にとっての

主体性とは何だろうか大切なのではと考えます。「ふりつけを考えた」「友だちの考えたふりつけを一生けん命におどった」「いつも見にこられない家族のためにおどった」など子どもの中にある思いに沿って活動すればそれは主体的と考えてもよいのではないのでしょうか？それらのものをオーガナイズしたり、まとめたりすることが教師の仕事なのかなと思います。本日はありがとうございました。

■本校では校舎の建替にともない本年度は、となりの小学校で「スポーツフェスティバル」として行いました。全学年では、ラジオ体操とEX体操 各学年では、個人走と団体競技を行いました。大隅西小は、1学期に運動会が行われるので、練習時間の確保が大変だと思いますが、今年度中に、方向性を決めておくのが大切だと思いました。

■今回の研修を通して、サッカーの授業でのさまざまな方法を知ることができてよかったです。実際に自分が行うことで感じることもあったので、今後に生かしていきたいと思います。また、運動会においては、各校の様々な取り組みを聞くことができてよかったです。本日はありがとうございました。

■「運動会」というくくりで考えていたのでも「団演」はやるべきだと思い、どうすべきか考えていたが、スポーツ大会のような形式に変えてしまえば、悩みがへるとわかりました。

■低学年でも使えそうな実技をたくさん教えてくださりありがとうございました。楽しかったので、3学期やらしてあげたいです。運動会のことは答えでまsenseenでしたが、来年度以降の良い材料になりました。

■サッカーの研修で、サッカーのことだけで

はなく、1つのことをいろんな方法で見ることができるということを学びました。

■本日はありがとうございました。サッカーの指導をどのようにすればいいのかを悩んでいたところだったのでとてもいい機会でした。また来年の運動会の話し合いもでき、いろいろな意見が聞けてよかったです。来年の運動会が楽しみになりました。

■サッカーの指導等具体的にありがとうございました。がんばって実践してみたいと思います。

■子どもたちが楽しみながら参加できるような工夫がたくさんされているゲームを知れて良かったです。

■本日はありがとうございました。主体的に学習していくために、ルールをけずるなどの「しかけ」やサッカーが苦手な子も活躍できる環境づくりが大切だと改めて感じました。運動会に関して、本校は児童が主体的に学んでくれているので、一番は学校の児童の実態に合わせた教育が大事だと思います。

■ボール運動が苦手な子どもも楽しむことのできる様々なゲームを知れて良かったです。

今後活用していきたいと思いました。また、運動会についても、学校によって様々な取り組みをしていることを知れました。本日はありがとうございました。

■本日はありがとうございました。これからの体育の授業で、取り入れていけたら楽しいなと思うものばかりでした。1番はじめのまん中にボールを集めて、4チーム、3つのボールをはじめにあつめられたら勝ち！ゲームは私まで順番がまわってこなくて、とてもさみしい気持ちになりました。私は授業でこういった子をださないようにしようと思いました。その子どもの気持ちも知れたので良かったです。ありがとうございました。

■本日はありがとうございました。サッカーの研修では、試合形式にこだわるだけではなく、その前の段活の活動で試合で使える動きや戦略が学べる活動を行うことが大切なのだと思います。運動会については、永木先生もおっしゃっていたように、大きくやり方を変えられる環境に感謝して考えていきたいと思いました。

F A X 番号 0 6 - 6 3 2 8 - 6 3 5 2

全市公開授業・ビデオ授業研究会の申込 参加申込書

送付先	大阪市立 大隅西小学校
	教頭 前田 博己
	T E L 0 6 - 6 3 2 8 - 6 5 5 7
	F A X 0 6 - 6 3 2 8 - 6 3 5 2

送付元	所属名 (学校名)				
	ご担当者				
送 付 期 日		各公開授業・研究会の2日前まで			
件 名		全市公開授業・ビデオ授業研究会の申込			
参 加 者	職 名	お 名 前	参加希望日		

【お問合せ先】
大阪市立大隅西小学校
(電話) 06-6328-6557
教頭 前田まで